

子どもの姿

園庭に出た子どもたちは、思い思いに氷を探しに走っていきました。築山に着いた子達は、盛り上がっている土を触って「先生、なんかいつもと違う」「土が硬いよ」「凍ってるのかな?」と、手で触ったり、足で踏んだりしていました。保育者も「わあ、ほんとだ。硬いね」と驚きました。倉庫の裏に行った子は「お茶碗に溜まった水が凍った」と興奮してみんなに教えてくれたり、「先生、こちきて!」「凍ってる!」と園庭の隅にある一輪車の荷台に大きな氷ができていることを嬉しそうに知らせてくれました。

いろいろな場所で見つけた氷は、集めて荷車に乗せて運んだり、かき氷屋さんごっこをして遊んだりして遊びました。

保育者の思い

「園庭にも氷があるかもしれない」「氷を見つけない」と、園庭に向かった子ども達。氷を見つけれるといいな。

いつもと土の様子が違うことに気が付いた子ども達。思わず触ってみるとやはりいつもと違い、なんとなく不思議だと感じたりしたことを言葉にして友達や保育者に知らせ、一緒に感じてほしい。(共感)

見つけた氷をたくさん集めて楽しむ子、氷を使ってかき氷屋さんをして遊んでいる子、それぞれの楽しみ方で遊んでほしい。



子どもの育ちや学び

寒い朝の登園時の子どもと保護者の方との「氷が張っているね」という会話や「氷ができているのを見たよ」という話を、友達に伝えたり、聞いたりした子ども達。「自分も見つけない」「もしかしたら園庭にもあるかもしれない」と、友達と一緒に探していました。

氷を探している中で、土の様子がいつもと違うことに気付いたり、「氷はどこにあるかな?」「こんな所に氷があった!」と、普段は覗いてみない所を見たりして、友達や保育者に知らせ、まるで、宝物を見つけたようなワクワクした表情で、氷を触ったり持ったりしていました。

子ども達は、氷を見つけるだけでなく、使ってまごとかき氷屋さんを始めたり、たくさん集めて達成感や満足感を味わったりしていました。また、氷を使った遊びでの友達とのやりとりやつぶやきの中には、自分の知っている氷のことを伝えている様子もありました。

家庭だったら

冬の朝は、寒いからこそ、氷や霜のように目に飛び込んでくる自然現象に目を向けられるといいですね。実際に触って感じ、驚きやワクワク感、不思議さを感じやすいものです。そして、「はあー」と息をかけると暖かくなることを知ったり、手を繋いだりして暖かさを感じることもできます。

